

第1回 沿岸部（海岸）における気候変動の影響及び適応の方向性検討委員会

指摘事項・課題とその対応

○指摘事項

議題と内容	指摘事項	指摘事項への対応
(1)検討の背景について	①海岸における適応対策が具体的に進まない大きな要因として、これまで日本では「日本周辺の海面は変動している」という見方をしてきたことがあげられる。日本政府として「海面は（変動でなく）上昇している」という見解になっているのか確認してほしい。	気象庁へ確認しました。 <ul style="list-style-type: none"> ・1960～2013年の4海域平均のトレンドは+1.1mm/年となる。 ・ただし、ここ100年の日本沿岸の海面水位でみると、明瞭な上昇傾向は見られない。 ・1950年代から1960年代にかけての海面水位の低下については、主に偏西風などの大気変動の影響が要因の1つとして考えられますが、図で示される水位変化の全てを説明することはできない。 ・地盤変動等の補正を行っていないため、その影響が含まれている可能性がある。
(2)これまでの取り組みについて	①予測が不確定であることを前提にしつつ、どのような影響が起こりえるのかを議論し、それに対する対応策を考えていく方針とした方が良い。	ご指摘を踏まえ、気候変動影響（海面上昇）の前提を複数設定するとともに、同設定が不確実に推移した際の適応の考え方（案）を示します（資料5）
	②本委員会では土地利用形態によってL1のレベルを変えることはあり得るところまで議論の範囲は広げないが、そういったことを念頭に置きながら、海面上昇が起こればL1のレベルを相対的に上げなければいけないとか、考慮しなければならないことを議論してほしい。	
(3)前提条件の検討に関する資料について	①L1、L2の2つに分けて考えるのか、1つで考えるのか。何年後を考えるのか。現状に対していかに人命や財産を守るのか。順応的に対応していくのか。シナリオを一つ書いて、それを中心にどういう対応をしましょうという議論ができるよう整理してほしい。	
(4)海岸分野における影響について	①海浜の影響が並列に書いてあるが、一つの影響が他の方に影響して、また他の方に影響するという流れもあると思うので、そういう観点も組み込んでいただきたい。	ご指摘の点を資料に反映しました。（資料4、5）
	②浅海域は水産有用種の生産活動の場として非常に重要であり、海水温の上昇によって魚類の活性が高くなることや、ウニなどの活性が高くなることによって磯焼けが進行するという恐れがあること、底質が変わることによって貝などの生息環境の変化、影響についても定性的でよいので既往の検討結果を	水産庁等の資料をもとに整理しました。（資料4）

	参考に項目立てしてほしい。	
	③台風以外に、冬季風浪などの季節風による影響も気候変動により大きくなるのか。また、海外ではそのような影響を検討しているのか。	冬季風浪による 50 年確率波高に有意な変化はなく、夏季を除く季節の平均有義波高は減少するとの研究成果を確認しました。(資料 4)
	④気候変動による風速の増大を考慮して、有義波高が 10%のオーダーで上昇するという研究成果があったと記憶しているので、確認してほしい。	夏季の 50 年確率波高が 20%程度増加するとの研究成果を確認しました。(夏季以外の季節の平均波高は減少) (資料 4)